

本日の歌詞 (15年2月18日)

『忘れ唱歌』(作者不詳)

今度 長崎で 変った唱歌を習ふた 後先は覚へなんだが 中の唱歌を忘れた
さこそあるべきと書いて貰ふたが それさへ出口で落した
首尾も諸訳もその通り ハテ面目ナイ

世にここに哀れさしひは 主殿吉三の廓(さと)通ひ 宵の口説におもやせて
あなたの方へおさらばへ こなたの方へおさらばへ のとさまへ
猪牙にも駕籠にも えのらひで 手編み笠をかひこんで
土手の窪たまりに 蹴爪づいて ひざがしらを すりむいた
アイタしこ なんとした アイタたんの たんせつぼう

ちんば引きひき 金龍山の米饅頭は うらないか
銭はあるよ おんじゃれ申して あるよサ とかく浮世は おもしろや

『たれかおもはむ』(島崎藤村 詩集「若菜集」より)

たれかおもはむ 鶯(うぐひす)の 涙もこほる 冬の日
若き命は 春の夜の 花にうつろふ 夢の間(ま)と
あゝよしさらば 美酒(うまざけ)に うたひあかさん 春の夜を

梅のにはひに めぐりあふ 春を思へば ひとしれず
からくれなゐの かほばせに 流れてあつき なみだかな
あゝよしさらば 花影に うたひあかさん 春の夜を

わがみひとつも わすられて おもひわづらふ こゝろだに
春のすがたを とめくれば たもとににほふ 梅の花
あゝよしさらば 琴(こと)の音(ね)に うたひあかさん 春の夜を